

平成30年度
九州大学大学院総合理工学府
修士課程一般選抜
第2次学生募集

希望研究室等調査票記入に関する参考資料

(平成29年10月)

この資料は必ず「平成30年度九州大学大学院総合理工学府修士課程一般選抜第2次学生募集要項」とセットでお取り扱いください。

希望研究室等調査票記入に関する参考資料

あなたが合格し、本学府に入学した際、どの研究室での修士論文研究を希望しているのかを予め調査し、入学試験に関する補足資料とします。

については、あなたの志望専攻のページをよく読んで、希望研究室等調査票（様式2）に正確に記入してください。

総合理工学府ホームページ

《<http://www.tj.kyushu-u.ac.jp/>》

量子プロセス理工学専攻ホームページ

《<http://www.asem.kyushu-u.ac.jp/>》

物質理工学専攻ホームページ

《<http://www.mm.kyushu-u.ac.jp/>》

先端エネルギー理工学専攻ホームページ

《<http://www.aees.kyushu-u.ac.jp/>》

環境エネルギー工学専攻ホームページ

《<http://www.eee.kyushu-u.ac.jp/>》

大気海洋環境システム学専攻ホームページ

《<http://www.esst.kyushu-u.ac.jp/>》

量子プロセス理工学専攻研究室の概要

研究室名 (教員名)	研 究 内 容 と 連 絡 先
電離反応工学 教授:内野 喜一郎 准教授:山形 幸彦	<p>プラズマの生成とそのレーザー計測法を通じての制御により、新種の光源としての応用や環境汚染物質の分解・除去など、先端的技術の開発を進めている。</p> <p>【電離, イオン, プラズマ, 発生, 制御, レーザー計測, 電磁界, 電子温度, 電子密度, 粒子計測, プラズマプロセス, 極短紫外線, 環境汚染物質分解】</p> <hr/> <p>ホームページ: http://www.asem.kyushu-u.ac.jp/ep/ep01/jp/index.html TEL: 092-583-7077 e-mail: uchino@ence.kyushu-u.ac.jp TEL: 092-583-7605 e-mail: yamagata@ence.kyushu-u.ac.jp</p>
電磁応用工学 准教授:吉 武 剛	(今回の募集はありません)
光エレクトロニクス 教授:浜本 貴一 准教授:堤井 君元	(今回の募集はありません)
グローバルイノベーションセンター 機能デバイス工学 教授:中島 寛 総合理工学府 国際化教育推進担当 准教授:王 冬	<p>薄膜形成技術, 加工技術, それらを組合せたデバイス化技術を用いて, IV族半導体の電子デバイス・光デバイスの研究開発を行っている。また, 半導体薄膜の評価法に関する研究も行っている。</p> <p>【MOSFET, LSI, CMOS, 成膜と加工プロセス, 絶縁膜と結晶薄膜の低温形成, Si, SiC, SiGe, Ge, SOI, SGOI, GOI, 接合過渡容量・電流法, フォトルミネッセンス法】</p> <hr/> <p>ホームページ: http://gic.kyushu-u.ac.jp/nakasima/ TEL: 092-583-7872 e-mail: nakasima@gic.kyushu-u.ac.jp TEL: 092-583-7637 e-mail: wang.dong.539@m.kyushu-u.ac.jp</p>
グローバルイノベーションセンター フォトニックシステム工学 教授:服部 励治	(今回の募集はありません)
結晶物性工学 教授:西田 稔賢 准教授:板倉 賢	<p>合金から半導体, 磁性材料, およぶ種々の機能性材料の相転移や微細構造変化と物性について, 電子顕微鏡を駆使した実験と理論の両面からの研究を行っている。</p> <p>【分析型透過電子顕微鏡, 走査透過電子顕微鏡, 走査電子顕微鏡, 相転移・組織制御, 結晶成長, 微細構造解析, 形状記憶合金, Ti合金, 希土類磁石, 環境半導体, シリサイド薄膜, 半導体薄膜】</p> <hr/> <p>ホームページ: http://www.asem.kyushu-u.ac.jp/of/of01/root/welcome.html TEL: 092-583-7534 e-mail: nishida.minoru.355@m.kyushu-u.ac.jp TEL: 092-583-7535 e-mail: itakura@kyudai.jp</p>
無機光機能材料工学 教授:大瀧 倫卓 准教授:末國 晃一郎	<p>「無機物質の誇る強靱で多様な物性バリエーションを材料化学的立場から最大限に活用し, さらに有機分子の持つ優れた自己構築機能や選択的相互作用を協奏的に発現させることにより, 熱電エネルギー変換, 光エネルギー変換などの高度な機能を持つ新しい無機材料の開発を行っている。</p> <p>【熱電変換材料, 酸化物熱電デバイス, 酸化物半導体, 金属カルコゲナイド, エネルギー変換材料, 光触媒, 導電性セラミックス, 熱伝導率, ナノ構造制御, 低次元ナノ物質, 自己組織化, 超集積量子構造, 分子集合体, 無機有機複合体, 機能無機材料, 結晶構造解析, 単結晶育成】</p> <hr/> <p>ホームページ: http://www.asem.kyushu-u.ac.jp/~ohtaki/ TEL:092-583-7947 e-mail: ohtaki@kyudai.jp TEL:092-583-7948 e-mail: suekuni.koichiro.063@m.kyushu-u.ac.jp</p>
量子材料物性学 教授:波多 聰	(今回の募集はありません)

(量子プロセス理工学専攻研究室の概要 続き)

研究室名 (教員名)	研究内容 と 連絡先
非線形物性学 教授:本庄 春 雄 准教授:坂 口 英 継 *2019年3月退職予定	樹枝状結晶, フラクタル形態, 液晶の対流パターンなど自然界に存在する散逸構造の機構の解明を目指し, 実験, 理論, 計算機シミュレーションを行っている。 【フラクタル, パターン形成, 非平衡開放系, 非線形ダイナミクス, 樹枝状結晶成長, 拡散律速凝集, 振動子の引き込み現象, 時空カオス, 粉体物理, 破壊現象】 ホームページ: http://www.asem.kyushu-u.ac.jp/qq/qq02/index-j.htm TEL: 092-583-8836 e-mail: honjo@asem.kyushu-u.ac.jp TEL: 092-583-8837 e-mail: sakaguchi@asem.kyushu-u.ac.jp
機能分子工学 教授:菊池 裕 嗣 准教授:奥村 泰 志	自然界に見られる分子の自己組織化, 自発的秩序化に関する基礎化学の高度化を通じて, 低環境負荷で高機能を示す新しい材料科学の創成, 新規有機デバイスの開発を目指しています。 【有機ナノ構造材料, 分子自己組織化, 液晶デバイス材料, 超分子液晶, 高速電気光学デバイス, 次世代表示素子, 電気化学的分子スイッチ, 生体模擬材料, 低環境負荷デバイス材料】 ホームページ: http://kikuchi-lab.cm.kyushu-u.ac.jp/ TEL: 092-583-7797 e-mail: kikuchi@cm.kyushu-u.ac.jp TEL: 092-583-7788 e-mail: okumura@cm.kyushu-u.ac.jp
化学反応工学 教授:林 潤 一 郎	炭素系・無機系資源を化学・エネルギープラットフォームである水素・COと素材に同時再生する熱化学・触媒反応システムを開発し, 持続的炭素サイクル化学体系構築を目指した研究を行っている。 【炭素資源, 石炭, コプロダクション, 水素, 熱分解, ガス化, コークス, バイオマス, バイオリファイナー, 触媒, プロセスシミュレーション】 ホームページ: http://www.carbonres.com TEL: 092-583-7793 e-mail: junichiro_hayashi@cm.kyushu-u.ac.jp
材料電気化学 教授:岡田 重 人	電気自動車などに用いる低コスト低環境負荷の大型高エネルギー密度蓄電池実現に向けて, リチウムイオン電池や次世代電池系新規電池材料の研究を行っている。 【リチウムイオン電池, ナトリウムイオン電池, 水系アルカリイオン電池, 全固体電池, インターカレーション, 新規正極, 新規負極, 熱安定性】 http://www.cm.kyushu-u.ac.jp/dv07/dv07j.html TEL: 092-583-7841 e-mail: s-okada@cm.kyushu-u.ac.jp
機能有機材料化学工学 准教授:藤田 克 彦	有機デバイスの開発を目指して, 有機半導体材料開発, デバイス作製プロセス開発, デバイス動作機構解明といった多角的な実験研究を行っている。 【有機EL, 有機トランジスタ, 有機太陽電池, 有機メモリ, 有機超薄膜, 高分子薄膜, 自己組織化単分子膜, 発光材料, 導電材料】 ホームページ: http://www.asem.kyushu-u.ac.jp/of/of03/jp/ TEL: 092-583-7532 e-mail: katsuf@cm.kyushu-u.ac.jp
素子材料工学 教授:尹 聖 昊 准教授:宮 脇 仁	(今回の募集はありません)
機能物性評価学 教授:大橋 直 樹 教授:高田 和 典 准教授:坂 口 勲 准教授:原 徹	(今回の募集はありません)
グローバルイノベーションセンター 機能材料工学 教授:藤野 茂	次世代のフォトニクス, エレクトロニクス, バイオ分野を支える有機/無機メソポーラス材料と先端機能性ガラスに関する研究・開発を行っている。 【シリカガラス, ナノ粒子, ナノコンポジット, メソポーラス構造, 微細加工技術, ナノインプリント, 発光材料, 透明導電性, プリンティッドガラス, バイオチップ, 環境調和型ガラス材料】 ホームページ: http://www.gic.kyushu-u.ac.jp/fujino/ TEL: 092-583-8773 e-mail: fujino@gic.kyushu-u.ac.jp

物質理工学専攻研究室の概要

研究室名 (教員名)	研 究 内 容
表面物質学 教 授：水野 清義 准教授：中川 剛志	半導体や金属の結晶表面上に形成する表面新物質の構造を原子レベルで解明し、電子状態や磁性などの基礎物性評価へと展開する。また、表面ナノ構造の作製、電子状態や構造解明のための新しい測定手法の開発を行なう。 【表面構造解析、表面薄膜磁性、表面微小領域の構造解析法の開発、走査トンネル顕微鏡、低速電子回折、電界イオン顕微鏡、光電子分光、放射光】 水野 Tel: 092-583-7039 e-mail: mizuno.seigi@kyudai.jp 中川 Tel: 092-583-7528 e-mail: naka@kyudai.jp
理論物質学 教 授：青木 百合子	コンピュータシミュレーションにより、物質の構造・物性・反応性の解明と新機能材料設計を目指す。ナノマテリアル(固体、表面)や高分子等の効率的かつ高精度量子化学計算法、ナノ粒子触媒反応や有機化学反応メカニズムの理論解析、タンパク質やDNAの機能解析法の開発とスーパーコンピュータによる応用を行う。 【量子化学計算、電子状態、ナノマテリアル、ナノ粒子触媒反応解析、有機反応解析、機能性高分子設計、DNA, タンパク質、強磁性・導電性・非線形光学特性】 青木 Tel: 092-583-8834 e-mail: aoki@mm.kyushu-u.ac.jp
機能材料物性学 教 授：島ノ江 憲剛 准教授：渡邊 賢 准教授：西堀 麻衣子	今回は募集しません。
機能無機材料工学 教 授：永長 久寛 准教授：北條 元	今回は募集しません。
構造材料物性学 教 授：中島 英治 准教授：光原 昌寿	今回は募集しません。
分子計測学 教 授：原田 明 准教授：藪下彰啓	今回は募集しません。
先端材料強度学 教 授：新川 和夫* 准教授：東藤 貢 *2019年3月退職予定	今回は募集しません。
構造有機化学 教 授：友岡 克彦 准教授：伊藤 正人	今回は募集しません。
機能有機化学 教 授：國信 洋一郎	今回は募集しません。
反応創造化学 教 授：永島 英夫	今回は募集しません。

研究室名（教員名）	研 究 内 容
精密合成化学 教 授：新藤 充 准教授：狩野 有宏	生体作用有機分子の設計と合成、生物活性発現の機構解析、新規反応剤を利用する合成反応の開発など有機合成化学を基盤に生命科学の分子レベルでの理解と制御を目指した研究を行う。抗がん剤、ドラッグデリバリー、がん免疫などの研究を、細胞生物学、分子生物学、マウスを用いた腫瘍生物学の観点から実施する。特に今回後半の分野を募集する（狩野： http://www.cm.kyushu-u.ac.jp/dv01/kano/index.html ）。熱意があれば経験の有無は問わない。 【有機合成化学、生体作用分子、医薬品、細胞生物学、細胞免疫学、生理活性物質】 新藤 Tel: 092-583-7802 e-mail: shindo@cm.kyushu-u.ac.jp 狩野 Tel: 092-583-7803 e-mail: kano@ms.ifoc.kyushu-u.ac.jp
高分子材料物性学 教 授：横山 士吉 准教授：高橋 良彰	今回は募集しません。
ナノ融合材料科学 教 授：柳田 剛	今回は募集しません。
新素材開発工学 教 授：徐 超男 教 授：山田 浩志 准教授：上原 雅人	今回は募集しません。
グローバルイノベーションセンター 先進ナノマテリアル科学 教 授：吾郷 浩樹	今回は募集しません。
中央分析センター 無機ナノ構造解析学 准教授：稲田 幹	今回は募集しません。
基幹教育院 自然科学実験系部門 分子科学 教 授：古屋 謙治	分子成長をキーワードとして、実験と計算の両面からイオンやラジカルが関わる素反応過程の徹底理解に取り組んでいる。具体的には、次の3つのテーマを中心に研究を進めている。(1) 素反応研究に適した質量分析法や分光法の開発、(2) 反応性プラズマ中での分子成長に関する研究、(3) 量子化学計算と実験結果との詳細な比較と検討。 【質量分析、分子分光学、化学反応素過程、反応動力学、原子・分子衝突、反応性プラズマ、量子化学、計算化学、分子動力学】 古屋 Tel: 092-802-6005 e-mail: furuya.kenji.261@m.kyushu-u.ac.jp

先端エネルギー理工学専攻研究室（グループ）の教員構成

先端エネルギー理工学専攻では下表の研究室（グループ）構成に基づいて教育・研究が行われています。先端エネルギー理工学専攻全般に関わる内容等の照会は、先端エネルギー理工学専攻事務室（092-583-7562）にお尋ねください。ホームページは、http://www.aees.kyushu-u.ac.jp/kouza_guide.htmlです。配属希望研究室（グループ）は、次ページ「先端エネルギー理工学専攻研究室の概要」より選んでください。

研究室（グループ）		担当教員	連絡先
高エネルギー応用力学 http://appl.aees.kyushu-u.ac.jp/		林 准教授	hayashin@aees.kyushu-u.ac.jp
極限材料工学 http://www.qpn.kyushu-u.ac.jp/lab8/index-j.html		橋爪 准教授	hashi@nucl.kyushu-u.ac.jp
エネルギー化学工学 http://eche.kyushu-u.ac.jp/index.html		深田 教授 *	sfukada@nucl.kyushu-u.ac.jp
		片山 准教授	kadzu@nucl.kyushu-u.ac.jp
エネルギー物理工学 http://enep.ence.kyushu-u.ac.jp/		渡辺(幸)教授	watanabe@aees.kyushu-u.ac.jp
		金 准教授	kin@aees.kyushu-u.ac.jp
先進宇宙ロケット工学 http://art.aees.kyushu-u.ac.jp/index-j.html		山本 教授	yamamoto@aees.kyushu-u.ac.jp
核融合 プラズマ グループ	高エネルギープラズマ力学 http://www.triam.kyushu-u.ac.jp/hanadalabo/student_hanadaken.html	花田 教授	hanada@triam.kyushu-u.ac.jp
	核融合プラズマ理工学 http://www.triam.kyushu-u.ac.jp/fujisawaken/	藤澤 教授	fujisawa@triam.kyushu-u.ac.jp
		永島 准教授	nagashima@triam.kyushu-u.ac.jp
	先進プラズマ制御学 http://www.triam.kyushu-u.ac.jp/ideiken/index.html	出射 教授	idei@triam.kyushu-u.ac.jp
シミュレーションプラズマ物理学 http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/sosei/index.html		糟谷 准教授	kasuya@riam.kyushu-u.ac.jp
高エネルギー極限物性学 http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/koenezai/index-j.html		稲垣 教授	inagaki@riam.kyushu-u.ac.jp
		渡辺(英)准教授	watanabe@riam.kyushu-u.ac.jp
非線形物質運動学 http://tokusui.riam.kyushu-u.ac.jp/Itoh_Lab/home.html		小菅 准教授	kosuga@riam.kyushu-u.ac.jp
プラズマ材料学 http://www.triam.kyushu-u.ac.jp/tokunagaken/index.html		徳永 准教授	tokunaga@riam.kyushu-u.ac.jp
先端エネルギーシステム学分野（連携講座） http:// （加藤） http://www.aees.kyushu-u.ac.jp/kouza_18.html （福田） http://www.cis-trans.jp/nifs/index.html （田中(謙)）		加藤 准教授	kato.daiji@nifs.ac.jp
		福田 准教授	fukuda.yuji@jaea.go.jp
		田中 教授	ktanaka@LHD.nifs.ac.jp

*深田教授は2019年3月退職予定です。

先端エネルギー理工学専攻研究室の概要

研究室名 (教員名)	研究内容
准教授 林 信哉	プラズマを用いた新しいバイオ・医療・農業応用技術を開発することを目的として、プラズマと生体との相互作用から医療用機器開発や植物成長促進技術まで、広範囲にわたるプラズマ科学の学理を追求し、柔軟な応用力を養うための教育と研究を行う。 http://appl.aees.kyushu-u.ac.jp/
准教授 橋 爪 健一	核融合・水素・太陽等のエネルギー利用を念頭に、極限環境(超高温、放射線場等)に置かれた材料の応答・物性変化を、材料中の原子・イオン・電子等のマイクロ挙動を通して明らかにし、エネルギー材料開発のための教育と研究を行う。 http://www.qpn.kyushu-u.ac.jp/lab8/index-j.html
教授 深田 智* 准教授 片山 一成 *2019年3月退職予定	化学工学や物質移動を核融合・核分裂炉、水素エネルギーシステム開発と設計に応用する。複雑なシステムを構成するプロセスや材料の開発、その中で起こる基本現象の把握を通じ、システム設計、解析を行うための教育と研究を行う。 http://eche.kyushu-u.ac.jp/index.html
教授 渡辺 幸信 准教授 金 政浩	(今回の募集はありません)
教授 山本 直嗣	(今回の募集はありません)
教授 花田 和明	電磁石を用いた大型プラズマ閉じこめ実験装置QUESTを用いた先進的計測・高周波によるプラズマ加熱・壁の能動的制御の実験を通じて、核融合炉に必要な技術の開発及びプラズマ物理の理解に関する教育と研究を行う。 http://www.triam.kyushu-u.ac.jp/hanadalabo/student_hanadaken.html
教授 藤澤 彰英 准教授 永島 芳彦	プラズマ科学の基礎的研究から高温プラズマを生成する核融合基礎実験装置を用いた研究まで幅広い研究テーマに取り組む。主にプラズマ乱流、輸送現象、計測法開発、非線形データ解析など、極限プラズマに関する教育と研究を行う。 http://www.triam.kyushu-u.ac.jp/fujisawaken/
教授 出射 浩	球状トカマクQUEST 装置にて、高周波・ミリ波を用いた核融合プラズマの生成・加熱・維持、プラズマ診断・制御の研究、加えてそれらの研究を遂行するため、高周波・ミリ波要素部品の開発研究を行う。プラズマ-波動相互作用の解析や、高周波・ミリ波設計のための計算機シミュレーションも行う。 http://www.triam.kyushu-u.ac.jp/ideiken/index.html
准教授 糟谷 直宏	磁場閉じ込めプラズマ乱流のシミュレーション、核燃焼プラズマ統合コードの開発、乱流場データの時空間構造診断等に、スーパーコンピュータを用いて取り組む。実験観測対象を模擬する複合的な計算機シミュレーションのための教育と研究を行う。 http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/sosei/index.html
教授 稲垣 滋 准教授 渡辺 英雄	高エネルギーのイオンや中性子が降り注ぐ環境や熱負荷の激しい環境が材料に与える影響を原子レベルで捉えることによって、その背後にひそむ物理メカニズムを研究する。更にその成果を指針としてこのような環境に耐える新材料の開発を目指す。 http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/koenezai/index-j.html
准教授 小菅 佑輔	高温プラズマにおいてみられるプラズマ乱流現象、輸送現象、自己構造形成やそのダイナミクスについて、解析、計算機シミュレーション、実験及び実験データ解析に基づいた幅広い教育と研究を行う。 http://tokusui.riam.kyushu-u.ac.jp/Itoh_Lab/home.html
准教授 徳永 和俊	プラズマ・壁相互作用による材料の表面損傷、及び水素吸蔵・リサイクリングの基礎過程を解明し、これらをプラズマの統合制御や材料開発に応用することにより、将来の核融合炉におけるプラズマ・熱・粒子制御法の構築に関する教育と研究を行う。 http://www.triam.kyushu-u.ac.jp/tokunagaken/index.html
准教授 加藤 太治	(今回の募集はありません)
准教授 福田 祐仁	(今回の募集はありません)
教授 田中 謙治	磁場閉じ込め高温プラズマのレーザーやマイクロ波を用いた計測手法の開発と、それを用いた物理研究を行っています。研究は岐阜県土岐市核融合科学研究所の世界最大の磁場閉じ込めプラズマ装置大型ヘリカル装置で行います。 http://www.cis-trans.jp/nifs/index.html

環境エネルギー工学専攻研究室の概要

研究室名 (教員名)	研究室の概要	主な研究テーマ
<p>エネルギー流体科学</p> <p>教授:青木 俊之 准教授:安養寺 正之</p>	<p>航空機や高速列車など高速輸送機における空力騒音の低減や摩擦抵抗低下による燃費性能の向上を目指し、圧縮性流体や流体音響工学をベースとした高速流体现象・波動などの基礎研究をはじめとし、関連計測技術の開発、さらには惑星探査航空機の実機開発を視野に入れた空力設計開発を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衝撃波を伴う超音速流れの流動機構と振動現象 ・高速走行時に発生する列車及びトンネル内の流体騒音現象 ・希薄な火星大気中を飛行探査する“火星探査航空機”の空力設計に関する研究 ・油膜による物体面上の摩擦応力分布及び流体構造を解析する光学計測技術の開発
<p>熱機関工学</p> <p>准教授:田島 博士</p>	<p>地球「環境」を守り「エネルギー」を開拓する本専攻の中で、交通機関や発電機に広く使用されるエンジンシステムの低公害化と高効率化、さらに燃料の開発を推進するのが熱機関工学研究室である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン性能の数値シミュレーションと燃焼のCFD計算 ・エンジン内燃焼の高速度可視化と画像解析 ・排気汚染物質とCO₂問題を解決するための高効率ガス燃焼技術の開発 ・NOx・PM (排気微粒子) 同時低減のためのクリーン燃焼技術の開発 ・省資源のための低質燃料利用技術の開発
<p>グリーンアジア環境学</p> <p>教授:萩島 理</p>	<p>本研究室では、低炭素・省エネルギー化及び安全性・快適性向上によりsustainableな建築空間及び都市空間の創出に貢献すべく、大気境界層科学、風工学、都市気候学、建築環境工学分野を主たるフィールドとして、屋外観測、風洞実験、流体数値解析、建物伝熱プロセスに関する数値計算及び実測調査などの手法による研究を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の幾何形状が市街地の気流場及び温度・濃度場に及ぼす影響の解明 ・粗面剪断乱流と障害物背後の後流の干渉現象の解明 ・建物内居住者の行動不確実性を考慮した建物のエネルギーデマンドの時系列予測 ・熱帯圏におけるsustainableな都市・建築デザインの究明
<p>都市建築環境工学</p> <p>教授:谷本 潤</p>	<p>都市建築空間において、省エネルギーを図り快適な環境を維持するため、熱伝導、対流、放射の基礎を学び、緑地などの自然地被と自然エネルギーの利用によるパッシブな熱環境の計画・予測・評価の方法を研究する。また、幅広い環境問題を人間-環境-社会システムの視点から解析する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市気候モデルによる都市高温化現象の解明 ・都市建築環境工学におけるパッシブコントロール手法の開発 ・循環型都市を目指した生活空間のサステナブルデザイン ・都市熱環境制御手法としての‘みず’と‘みどり’と‘そよ風’ ・複雑系科学および応用数理学手法を用いた人間-環境-社会システム工学
<p>熱環境システム</p> <p>教授:伊藤 一秀</p>	<p>本研究室では人体スケールから建築スケールの環境問題に対し、特に熱環境、空気環境に関連する基礎研究ならびに応用研究を行う。特に室内流れ場・温度場・濃度場の数値解析手法から健康影響予測まで幅広く研究開発を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算流体力学による室内流れ場、温度場、汚染物質拡散場の予測手法開発 ・環境解析用の数値人体モデル(<i>in silico human</i>)の開発 ・都市環境から人体呼吸域までのダウンスケーリング解析技術 ・哺乳類の数値気道(呼吸器系)モデル開発と経気道曝露シミュレーション
<p>熱エネルギー変換システム学</p> <p>教授:宮崎 隆彦</p>	<p>ヒートポンプ、冷凍機、熱機関等、エネルギー変換システムの効率向上による地球環境問題の解決を目指し、熱と物質の同時移動現象に関する基礎研究と応用研究を行う。また、太陽熱や排熱を高度に活用する次世代システムの研究開発を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種熱交換器の熱・物物質伝達促進 ・多孔質材料の吸着特性評価と応用技術開発 ・温室効果の小さい冷媒を利用した環境低負荷型ヒートポンプシステムの開発 ・熱駆動型冷凍空調システムの高性能化

大気海洋環境システム学専攻研究室の概要

講 座	研究室 (教育分野) 名	研究内容
流体環境学 (基幹)	宇宙流体環境学 教授：羽田 亨 准教授：松清修一	<ul style="list-style-type: none"> 様々な宇宙プラズマ現象 (非線形波動、乱流など) の計算機シミュレーション 高エネルギー天体现象 (衝撃波、宇宙線加速など) の理論および計算機シミュレーションと、これに関わる大型レーザー実験 宇宙の中の地球環境 (宇宙天気)
	環境流体科学 准教授：El jamal Osama	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の流動特性と物質輸送現象の解明 ナノテクノロジーを用いた水質浄化システムの開発 多孔質媒体中の反応溶質移動に関するモデリング
	沿岸海洋環境学 教授：杉原裕司	<ul style="list-style-type: none"> 大気-海洋間における運動量・熱・CO₂の交換機構に関する研究 潮流エネルギーを利用した発電技術の開発 沿岸海域における生態系の評価・予測に関する研究 沿岸海域における流れ・波・物質輸送に関する研究
環境基礎解析学 (協力)	非線形流体工学 教授：吉田茂雄 准教授：岡村 誠	<ul style="list-style-type: none"> 流体中のカオス・乱流 流体中の非線形波動 陸上、洋上、高空の風力エネルギー利用技術の研究開発 風車の空力弾性モデリングと乱流応答低減技術の研究開発
	大気物理 教授：岡本 創 准教授：山本 勝	<ul style="list-style-type: none"> 衛星搭載ライダーによるエアロゾル特性の研究 衛星リモートセンシングによる雲物理特性の研究 東アジア縁辺海域の気象学 惑星中層大気の力学
	海洋システム力学 教授：胡 長洪	<ul style="list-style-type: none"> 浮体式洋上風力発電技術に関する研究 新型潮流・海流発電装置の開発 海洋再生エネルギー開発のための水槽実験及び数値シミュレーション
環境計測学 (協力)	大気環境モデリング 教授：鶴野伊津志 准教授：弓本桂也	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアスケールの大気環境モデリング 最新の衛星観測と連携した大気環境実時間の解析に関する研究 化学輸送モデルへのデータ同化の応用 (数値予測・排出量逆推計・再解析など)
	気候変動科学 教授：竹村俊彦	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動と大気汚染に関する地球規模での数値モデルの開発 大気中の微粒子 (エアロゾル) や雲による気候変動の評価 エアロゾル (PM_{2.5}や黄砂) の週間予測システムの開発 温室効果ガスを含む微量気体成分の全球規模での時空間変動要因の解明
	海洋環境解析学 准教授：市川 香	<ul style="list-style-type: none"> 衛星、レーダ、ドローンを用いた沿岸流況リモートセンシングの開発 海面でのGPS信号反射を用いた海洋観測法の開発 レーダとフェリーによる黒潮と台湾海峡の流況変動監視
	海中機器制御 准教授：中村昌彦	<ul style="list-style-type: none"> 海中機器 (水中ピークル) の流体力学・運動 海中機器 (水中ピークル) の運動制御 浮体式海洋構造物の位置制御 海洋浮体式構造物の係留法
環境予測学 (協力)	海洋循環力学 准教授：千手智晴 准教授：遠藤貴洋	<ul style="list-style-type: none"> フィールド調査に基づく、東アジア縁辺海および内湾や沿岸域における海水循環の解明 地球温暖化や気候変動が、日本海・沿岸域の海洋環境にもたらす影響 微細スケールの海洋乱流が、東シナ海窒素棚や黒潮域・内湾の物質循環にもたらす影響
	海洋変動力学 教授：磯辺篤彦 准教授：木田新一郎	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸海洋、縁辺海や外洋における海洋力学過程の解明 (観測・モデリング・理論) 沿岸海洋や縁辺海における大気海洋相互作用 マイクロプラスチック・漂着ゴミなど海洋環境問題
	海洋モデリング 教授：広瀬直毅	<ul style="list-style-type: none"> 海洋モデリングとその応用 (気候変動、水産資源、海事科学など) 人工衛星データ同化に基づく海況予測や再解析 国際フェリーを利用した対馬海峡の変動監視 海洋内部環境の理解と予測に向けた数値モデリング
海洋機器開発 (連携)	海洋機器開発* 教授：月岡 哲 准教授：百留忠洋	<ul style="list-style-type: none"> 無人探査機システムの設計と開発に関する研究 海底探査機器とその制御に関する研究 深海遠隔探査機の推進性能向上・航続距離長大化に関する研究 海洋観測機器の位置の制御と計測方法に関する研究

注1) * 独立行政法人 海洋研究開発機構 との連携講座